



瀧谷山報

瀧谷山報

令和7年9月発行 通巻187号

発行所 瀧谷不動明王寺

〒584-0058 富田林市^{オナカ}彼方^{カノカタ}1762
電話 0721134-0028 振替 009301517704

●発行人 荒谷純榮
●編集人 野口大真

187号

令和7年9月発行

秋季大祭

七五三詣り ご案内

4

8

TAKIDANI
SANPOU

今後の 当山行事予定

秋季大祭

10月26日

- 御本尊御開扉大護摩供 **本堂**
午前6時 10時 11時30分
午後1時30分 3時
- 大般若経転読付大護摩供 **本堂**
午前11時30分
- 柴燈大護摩供 **境内**
午後1時頃開始 午後2時頃点火
- 火渡り **境内**
柴燈護摩作法終了後

七五三詣り

10月1日～11月末

- 七五三祈禱会 **本堂**
平日 午前10時 11時30分
土日祝 午前10時 11時30分
午後1時30分 3時
ただし10月15日はお勤めがございません。



日々のお護摩祈禱 **本堂**

- ◇平日 午前7時 10時 11時30分
- ◇土日祝 午前7時 10時 11時30分 午後1時30分 3時

交通安全祈願（車のご祈禱） **明王殿** もしくは **法楽殿**

- ◇午前9時～午後4時 毎時0分・30分
毎月第4日曜日・10月15日は交通安全のご祈禱はありません。
法楽殿改装工事の間は第一駐車場の明王殿にてお勤めいたします（10月中旬ごろまで）。

月例祭（毎月第4日曜日）

- ◇御本尊御開扉大護摩供 **本堂** 午前6時 10時 11時30分 午後1時30分 3時
- ◇瀧不動堂護摩供 **瀧不動堂** 午前9時頃～午後2時（瀧不動堂山伏に直接お尋ねください）
月例祭は交通安全のご祈禱はありません。

ご祈禱のない日

- ◇10月15日（大掃除のため）
この日は、お護摩祈禱は朝7時のみ、交通安全のご祈禱はありません。

行事の予定は変更になる場合がございます。
詳しくは瀧谷山公式ホームページにて随時ご案内いたしますので、
来山前に今一度ご確認ください。





こども時代にみんなで興じた外あそびには、「鬼ごっこ」や「かくれんぼ」、そして「だるまさんがころんだ」があった。役の一人は目立つ大木などに身をゆだね、顔を伏し、おそらく眼も閉じていたに違いない。そうした格好のまま10を数える際は「いち、にい、さん・・・」とはいわずに、件の「だるまさんがころんだ」を大きくとなえる。となえている間に残りの者たちは間合いを詰めて歩を進める。その時になえるスピードも緩急をつけるところがミソで、その術中にはまる、はまらない駆け引きにみんなが興じた。敵も味方もないあの遊びをいったい何歳頃まで続けていたのだろうか。おとなになつてしまえば、その機会はほぼ失われたに等しいものの、決してあそぶ権利を自ら手放したつもりはなかったのであるが。

もはや懐かしさの中に封印されたこの「だるまさんがころんだ」から今回は少しばかり連想を楽しみたい。

「だるま像」の造形誕生につながっている。

手も脚も出ないだるまさんであるが、正しくは手も脚も出さないだるまさんである。端然と真理の境地を味わっているだるまさんしてみれば、手や脚を出す必要など全くない。だが、わたしたちはいつもあらゆることに手や脚を出す、おまけに口までも出している。我^がを張って、われ先にと手を出し脚を出すことばかりの連続ではないか。そうした行動があたりまえにすらなってしまう衆生の哀しみを、かの福だるまは何と観^{くわん}ようものか。

それにしてもだるまさんは実に立派である。ただただまあるく坐っているだけ、どんなにころがされてもヨイショと元通りに自立する。「だるまさんがころんだ」という一文には、ころんだと見せかけながらヒヨイと起き上がるだるまさんの絶妙さが含まれている。もつといえはわたしたちも

「だるまさん」。実在した僧侶をこれほどまで軽妙に親しんで呼び、その特異な姿が縁起物や絵本、お菓子の類にまで汎用していることは珍しい。おそらく世のこどもたちは、あの原形がお坊さんなのだとすることすら一切頓着していないであろう。

正式には菩提達摩^{ぼだいだるま}、円覚大師とも称された人、やがて達磨^{だるま}とも表記される南インドの出身にして、禅宗の祖である。はるかむかし6世紀の人とも伝承され、北魏の時代にインドから渡来、嵩山^{そうざん}で壁に向かって坐禅すること9年に及んだ。一説にはその後にはわが国にも来たりて聖徳太子と交誼^{こうぎ}を結んだ伝説まで残る。

「面壁九年^{めんぺきくねん}」といわれた坐禅では、坐り続けた極まりの末に、自らの脚は萎えてしまった。そのさまが手も脚もない

だるまさんのようにまあるく生きてみようという呼びかけが聞こえてくるような心地になる。

「だるまさんがころんだ！」の掛け声が広場から響いていないような気がする。わたしたちは、人生の途上でみんなころんでしまったのだろうか。いやいやこの地球という星の上で、みな七転び八起きを繰り返しているではないか。無常という人生の舞台で懸命に生きている衆生のいとおしいこと。どっこいわたしたちは、この娑婆^{しゃば}と呼ばれるこの世を生き抜く術^{すべ}をおのずから持っている。

今、活況を呈している関西万博の大広場で「だるまさんがころんだ」を世界中の人々と興じることができるとさぞや楽しかろうと思う。ほんとうの「あそび」というものは、世界中の人を笑顔にするものであるがゆえに。

大般若経転読とは…

600巻におよぶ『大般若経』を大勢の僧侶が読誦じゃばらおりします。蛇腹折の経本を大きく宙に広げ高い位置から落とすようなダイナミックな動きが見どころの一つです。経本が勢いよく捲られることによって起こる風をうけると災難が除かれ、厄除けや長寿のご利益があるとされています。



柴燈大護摩供とは…

山中で採った柴ひば(檜葉)に火をともし、火中に不動明王をまねいて人日の平安を祈る修験道しゅげんどうの儀礼です。一説には、寛平2年(西暦890年)日吉大社において初めて勤められたものが嚆矢であるとされます。柴燈大護摩供では、儀礼の意味を訊す山伏問答や魔物を払い道場を清める宝弓の儀、護摩壇から登る大火焰に数千本もの護摩木が投じられ、祈りを込めて焚き上げられます。



火渡りとは…

柴燈護摩の残火を用い、燃える炭火の上を歩く修行。大導師が不動明王と合一し、火中を歩くことによって、衆生済度の火をまとう不動明王の境地「火生三昧」を体得する意味がある。火渡りを行えば、不動明王の智火により心身が清められ、無病息災の利益があるとされる。



秋季大祭

十月二十六日(第四日曜日)

大般若経転読付大護摩供
柴燈大護摩供
火渡り
厳修



- ◆ 大般若経転読付大護摩供 本堂
○午前11時30分
- ◆ 柴燈大護摩供 境内
○午後1時頃開始 午後2時頃点火
- ◇ 護摩木 … 1本 300円
随時受付中
お願い事を書いてお供えください。
- ◆ 火渡り 境内
○柴燈護摩作法終了後

を設け、大導師を先頭に火渡りを行います。修験者に続いて、一般の皆様も参加も予定しております。参加ご希望の方は、どうぞお参りください。

- 火渡りは危険な修行です。参加される方は、必ず先達せんだち(修験者)の指導に従ってください。
- 靴を脱ぎ、裸足で行っていただきます。靴を入れる袋・タオルなどは各自ご持参ください。
- 当日の天候等により、実施しない場合があります。

令和7年10月26日(日)、瀧谷不動尊では秋季大祭をお勤めいたします。

午前11時30分より、本堂にて大般若経転読付大護摩供を厳修。『大般若経』六百巻を転読という作法により読誦し世界平和・万民豊樂を祈願。あわせて参詣の皆様のお願ひ事を祈念いたします。

その後、午後1時より瀧峰大護摩講の修験者による柴燈大護摩供が盛大に勤められます。境内中央に築いた大きな護摩壇に火を燈され、炎の中に数千本もの護摩木を投じて祈りを込めてお焚きします。

なお今年の秋季大祭は、秋の彼岸との兼ね合いにより10月26日に実施いたします。

また、今年の秋季大祭 柴燈大護摩供では、瀧峰大護摩講の技術伝承のため、十数年ぶりとなる火渡り修行(火生三昧)を勤めます。柴燈護摩作法の終了後、境内に火渡り道場

（前回の続き）

死んでも残るという事の発想が日本人にはあるのです。西行法師^{さいぎょうほうし}という人が『山家集^{さんかじゅう}』¹に書いていますが、

願わくは 花の下にて春死なむ
その如月の望月のころ

願わくはお願いするよ、花の下にて春死にたいものだ。いつか。その如月の望月のころ 如月。睦月、如月というから2月、望月というから15日、俺はどうせなら桜の花の下で2月15日花が咲くころに、これは2月15日は咲いてないじゃないか、と思うかもしれないですが、実はこれは旧暦ですから。

旧暦の2月15日はいつから始まったかというところ「明治5年12月3日をもって明治6年の1月1日とする」という太政官交付が出た。むちゃくちゃな話です。ひと月ずれてしまっているから。明治5年という年は日本にとってすごい年なのです。岩倉具視使節団はパリからベルリン辺りを回っているとき、福沢諭吉が西洋事情を書いて出したとき、そして、新橋―横浜間の鉄道が開通した

たちに言うのです。「いいか。真言宗では通夜の

ない葬儀はないのだぞ。それを面倒くさいからやめてしまえ、とか、その方が一日葬で良いですよ、とか、本来亡くなった人に、面倒くさいからとか、お金がもつたいないとか、それでは失礼だろう。やつぱりちゃんと仏さんとしてあの世に送り出す儀式をしないとダメなのだよ。それをお坊さんが教えないから、皆葬儀屋の言いなりになる。」一日葬セットでこうなりますから」と言われてしまう。それは間違い。人の生きている尊厳を何と心得る、というやつだよ。

話に戻しますと、
願わくは 花の下にて春死なむ
その如月の望月のころ

西行法師は仏様のように桜の下で死にたいな、そして、その桜の花というのは散るのですよ。花が散った後が残るのか。実が残るでしょう。花が散る風景というのはいかにもきれいだ。例えば、能因法師^{のういん}が

山里の 春の夕暮れ来てみれば
入相の鐘に花ぞ散りける

良い歌でしょう。春の夕暮れに山に来てみたら入相の鐘、夕方にお寺の鐘がゴーンとなる瞬間、

とき、学制頒布されたとき、富岡製糸場が出来たとき。それが明治5年なのです。明治5年はすごい年ですね。岩倉という行政の親分が海外へ行っていない時に、西郷隆盛や日本に残っていた人がやった。それくらいのをしないと日本は近代化出来なかつたのです。それまでが旧暦で、私たちは今新暦を使っていますからずれている。

大体2月15日というのは、なぜ2月の15日かというところ、これはお釈迦様が亡くなられた日、お釈迦様になぞらえてなのです。西行法師は『山家集』のなかで、お釈迦様のように2月15日に死にたいものだ、と言っておられる。

暦の話になりますが、旧暦の2月の15日の暦を見ると、平成29年の暦も、令和何年の暦も、みんな旧暦の2月15日はお釈迦様の亡くなった日だから仏滅です。全部仏滅。そしてひとつ飛んで、インドは広いから、一日くらいあけないといけません。一日飛んで、その次が赤口。必ずそう。嘘だと思つたら旧暦の暦を見てみて。赤口からまた一日飛んで、翌日は友引です。必ず。だから赤口というのは火葬です。次に、ご遺骨を皆持つて、泣く泣く

桜の花が散っている。そこには祈りのシーンが有る。

お寺の鐘が鳴っている、単に桜の花が散る 夕日がきれいだけじゃなく、入相の鐘に花が散るということ、鐘の音がするという事はそこに祈りが有るという事だから、この歌のすごいところはそこだね。入相の鐘に花ぞ散りける 花が散つた後、実がなりますよね。

来て見れば夕べのさくら実となりぬ
という与謝蕪村^{よさぶさむら}の歌が有ります。夕べのさくらを見てみたいなと思つて来てみたら、なんだろう実がなっているじゃないか。散つて実がなる。人は死んでも残すものが有るという事です。軍歌で、

貴様と俺とは同期の桜
同じ兵学校の庭に咲く
咲いた花なら散るのは覚悟
見事散りましょ国のため

という軍歌があるのですよ。皆さま方はご存じだと思ひます。

私は、ある少年院の教誨師をしています。少年院に入る子には、中学校時代から学校へ行かず、少年院を出てから高卒の資格を取らないといけないという子がいます。法務省でも高卒資格を取らせてくださいと指導をしています。その少年

そこでお別れのご葬儀をしたのが友引。友引は本来であればお釈迦様のご葬儀の日なのです。それを今、江戸時代、字が友を引くから縁起が悪いとなつてあまり葬式をやりませんが。

そういうわけで、必ず、仏教、真言宗はお通夜をやつてご葬儀をするのですよ。なぜかというところ、お釈迦様が亡くなったとき、涅槃で皆弟子たちが悲しみ沙羅双樹の木まで白く枯れました。だから涅槃図では沙羅双樹の木は白く緑色の木ではありません。そして、一晩中泣いた。だから人の死は悲しいものだ。こういう風にやつてお前たち人間は誰だつて死ぬのだよ。と、お釈迦様は自分の身体をもつて見せたのです。だから仏になつたと言うでしょう、亡くなった人のことを。人はこういう風になるのだよ、と自分の身体で見せたのです。そして一晩中お弟子さんたちは悲しんだ。

また真言宗の中興の人は興教大師さん、根来寺を開いた人です。興教大師さんがお亡くなりになつた時もお弟子さんたちは一晩中、そこで陀羅尼^{だろに}、真言を唱えて、興教大師さんの冥福を祈つた。だから私が専修学院に居たときに、若いお坊さん

院の子供たちに「この歌を知っているか？貴様と俺は：」「知らない」という。全然知らない。一人も手が挙がらなかった。知らない人として手を挙げたらかつて悪いなと思うかもしれないが、少年院の子供たちは堂々と知らないと言います。

同期の桜見事散りましようというのはい体何なのだ。特攻隊で若い命を散らして、俺が死んだつて、ちゃんと俺の後良い実がなつてくれよ。赤ちゃんを残して死んだやつもいる。仕事を残して死んでいったやつもいる。俺が死んだつてちゃんと良い実がなるはずだ。良い国になるはずだ。と、死んでいくわけです。そういう人たちは心を無にして「死ななければならなかつた」。良い加減なことをしたら罰が当たります。桜が散つていく、散つた後には実が残る。皆さん方が亡くなつた後にも何か残していく。そのような発想をしていかないとダメなのです。（続く）

¹ 西行の歌集。西行50代末ごろに原型が成立したとされ、1500首以上の歌が収められている。
² 平安中期の歌人（西暦988年―没年不明）。中古三十六歌仙の一。
³ 江戸中期の俳人・画家（1716―1783）。



瀧谷山では、毎年10月1日より11月末まで七五三のご祈祷をお勤めしております。

七五三のご祈祷をお申込みいただきますと、本堂でのご祈祷のあと、お子様自身に絵馬に願いの事を書いていただき、お札・身代守のほかに千歳飴などの縁起物をお渡しします。また、参拝記念の撮影所がご利用いただけます。

ぜひご家族皆様でご参詣いただき、お子様・お孫様の健やかな成長と幸せをお祈りください。

◆ ご祈祷時刻

平 日 … 午前10時 11時30分
土 日 祝 … 午前10時 11時30分
午後1時30分 3時

ただし10月15日はお勤めがございません。

◇ ご祈祷料 … 5,000円より

◇ 授与品 … お札・身代守・絵馬・千歳飴・おもちゃ



大峯山入峯修行

令和7年7月20日から21日にかけて、瀧峯大護摩講の皆様とともに、修験道の霊峰・大峯山にて入峯修行のご縁をいただきました。初めての入峯ということもあり、山の厳しさや行の流れについて何一つ分らぬままの参加ではございましたが、瀧峯大護摩講の諸先輩をはじめとする方々に温かくお導きいただき、無事に満行させていただきましたことが叶いました。

登山道では、ただ歩を進めるだけでなく、自然の厳粛さに向き合いながら、一歩一歩に祈りを込めて進む大切さを学びました。

特に「覗き」の行場では、身も心も引き締まる思いとともに、自己と向き合う機会をいただき、深く心に刻まれる体験になりました。

当日は山上に至るまで天候に恵まれ、清らかな空気の中で修行を進めることができましたが、下山の途中にはやや雨に降られる場面もありました。それでも宿泊した洞川の旅館 紀の国屋 甚八さんに帰り着くころには雨も上がり、落ち着いた空の下で一息つくことができました。

後から聞いた話では、私が下山していたころ、洞川のあたりでは激しい雨が降っていたとのこと、まさに自然の不思議とありがたさを感じずにはおれませんでした。

俗世を離れ、大自然の中で、日々の営みや周囲のご縁に改めて感謝の念が湧き上がってまいりました。まだ未熟な身ではございますが、このたびの修行で得た学びと気づきを胸に、これからの日々の勤めに、より謙虚に、より真摯に向き合っていきたいと思えます。

末筆ながら、入峯修行の機会を賜り、道中にてお導きくださったすべての方々に心より御礼申し上げます。

合掌 江口 弘晃

お寺のごはん

20

ひね漬け

お漬物はなかなか奥深いものがございます。冬の間はぬか床は手を入れるのも冷たくて、時には心臓の堪えるほどに思えることもございます。

漬けるお野菜も大根や人参など限られますが、春も進み夏野菜が出回り始めるといよいよ浅漬けの季節到来です。胡瓜、茄子、みょうが、セロリ、その葉などなんでも美味しい浅漬けができます。

しかし立秋ともなると、ぬか床の中には浅漬けで食べそこねた胡瓜が鼈甲色になって残っている時があります。これは見つけ物です。これを使って少し手を加えます。

材 料

胡瓜 茄子
土シヨウガ みょうが 青しそ 甘長唐がらし

作 り 方

一 胡瓜は小口切りにいたします。

茄子は縦半分に切り、さらに小口切りにいたします。小口切りにした胡瓜と茄子はお水を張ったボウルに放って塩分と酸味を抜きます。

二 土シヨウガはおろしておきます。

みょうがは小口切り、青しそ、唐がらしも同様に小口切りにいたします。これらの薬味は浅漬けにしておいても生のままでも構いません。お水につけておいた胡瓜と茄子はよく絞って水気をきり、用意しておいた薬味と和えます。

三

この時少し濃い口しょうゆを落として香りと塩分を補います。

風味と食感をお楽しみください



ガラスの鉢に浅漬けの胡瓜や奈良漬などと盛り合わせると秋口の一品にぴったりです。

法楽殿改装工事 新調仏具奉納のお願い

先の山報（通巻186号）でお知らせの通り、来たる令和11年酉年御開帳記念事業の第一弾として法楽殿の改装工事が始まりました。現在すでに工事は進んでおり、本年10月26日（日）の秋季大祭までに完成する予定です。



今回の改装工事では、南面に断熱ガラスの囲いをするともに冷暖房設備を導入し、快適にお参りいただける環境を整備いたします。内装面では、外陣の拡張を行い、よりお不動さまのお近くでお参りいただけることと存じます。

また、工事期間中の交通安全祈願は引き続き第一駐車場前の明王殿にてお勤めいたします。ご参拝の皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

さて、この工事にあたりまして、昭和39年建立当時から直射日光による損傷が激しかった荘厳具の更新を計画しております。皆様には何かとご多端の折まことに恐縮に存じますが、下記の通り広くお施主様をお募りいたします。ご寄進いただける方は、当山までお知らせくださいますよう宜しくお願い申し上げます。

法楽殿姿図



◆ 別注六角菱灯籠 1基 200万円

◆ 別注猫足佛前吊灯籠（2基） 1基 80万円

◆ 六角高野型吊灯籠（20基） 1基 50万円

回向料 改訂のお知らせ

令和7年10月1日より、朝勤行での回向料を精霊1体につき2000円へと改訂させていただきます。誠に恐れ入りますが、ご理解のほどお願い申し上げます。

（例）精霊3体のご回向

……回向料6000円

柄杓ご奉納のお願い

新たな柄杓の奉納をお願いいたします。ご奉納いただいた柄杓にはお施主様のお名前を記し、手水舎にて大切に使用させていただきます。奉納料は1本2000円、受付は寺務所にて承ります。

お初穂米のお供えご案内

今年もお初穂米のお供えをお願いする時候となりました。

来年もおいしいご飯が食べられるように、という思いは今も昔も変わりません。初穂（はつほ）とは、今年の実りに感謝し来年の豊穰を祈願して神仏に捧げるお供えのことで、瀧谷山でも農家の皆様よりその年の新米をご奉納いただいてまいりました。現在ではより広く、買い求めた新米の一部をお初穂米もしくはお初穂料（お金）として

特志寄進者御芳名（順不同敬称略）

堺市	泉佐野市	河内長野市	福岡県	和泉市	堺市	河内町	奈良県	兵庫県	堺市	羽曳野市	藤井寺市
泉佐野市	河内町	富田林市	奈良県	羽曳野市	富田林市	富田林市	某所	河内長野市	守口市	東京都	大阪狭山市
羽曳野市	奈良県	堺市	奈良県	岸和田市							